

事業の状況

金融経済環境

当中間期の我が国経済は、復興需要や個人消費の改善により、前半は持ち直しの動きがみられましたが、後半にかけては欧州や中国など海外経済の減速による影響を受け、足踏み状態となりました。先行きに関しましては、当面弱い動きが続くものの、その後は海外経済の改善などにより持ち直していくものと思われませんが、国内外経済の不確実性は高く、円高等の不安要素もあり、依然として不透明な状況は続いております。

当行が主要な営業基盤としている北部九州においても、海外経済の減速や九州北部豪雨の影響により、改善の動きが弱まりました。

他方、金融業界では、資金運用利回りの低下や、株式市況の低迷など、金融機関を取り巻く環境が厳しさを増す中で、金融機関相互の競争はますます激しいものとなっております。

平成24年度中間期の業績等

このような経済情勢の中で、グループ役員一同総力をあげて業績の一層の進展と経営の効率化に努めてまいりました。平成24年度中間期の業績は次のとおりです。

◆預金、貸出金等

当行単体の財政状態につきましては、平成24年9月末の譲渡性預金を含めた預金等は前期末比では12億円増加、前中間期末比では409億円増加し、1兆9,073億円となりました。一方、平成24年9月末の総貸出金残高は、前期末比では106億円増加、前中間期末比では234億円増加し、1兆2,364億円となりました。

なお、有価証券につきましては、平成24年9月末残高は前期末比では182億円減少、前中間期末比では219億円減少し、6,065億円となりました。

◆収益状況

当行単体の業績は、経常収益で前中間期比7億26百万円増加の208億68百万円、経常利益で前中間期比40億6百万円減少の7億96百万円、中間純利益は前中間期比27億92百万円減少の81百万円となりました。

利益の大宗をなす資金利益につきましては、運用利回りの低下を調達利回りの低下で十分カバーできなかったため、前中間期比7億38百万円減少の132億30百万円となりました。経常利益の減少につきましては、経常収益は増加したものの、貸倒引当金が取崩しから繰入れとなったこと、株式市況の低迷に伴い株式等償却が前中間期比33億35百万円増加し、37億97百万円となったことが影響しています。

◆当行グループの業績

当行および連結子会社の業績は、連結経常収益で前中間期比8億27百万円増加の212億27百万円となったものの、連結経常利益では前中間期比40億61百万円減少の9億5百万円、連結中間純利益では前中間期比27億93百万円減少の97百万円となりました。

当行および連結子会社の財政状態につきましては、平成24年9月末の譲渡性預金を含めた預金等は前期末比11億円増加の1兆9,010億円となり、総貸出金残高は前期末比106億円増加の1兆2,364億円となりました。また、平成24年9月末の連結自己資本比率（国内基準）は、前期末比0.05%ポイント低下し11.63%となりました。